

## 1 単元名 「外国人にやさしいまちづくり」

### 2 単元の目標

- まちには多様な外国人が暮らしていることに気づくとともに、まちの課題と原因を理解し、資料にまとめている。 (知識及び技能)
- 調べたことを基に課題を発見し、外国人が快適に暮らすことができるような方策を考えたり、考えたことを適切な方法で他者に伝えたりしている。 (思考力、判断力、表現力等)
- まちづくりの目的意識をもち、共生社会の実現に向けて「木津川やさしCプロジェクト」に主体的に取り組もうとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

### 3 単元について

#### (1) 教材観

本単元では、「外国人にやさしいまちづくり」というテーマで、木津川市のまちづくりに取り組む。「外国人」とは、木津川市に住んでいる、あるいは木津川市の学校・職場に通うなど木津川市で生活している外国人のことであり、「やさしいまちづくり」とは、安心・安全で快適に暮らせる木津川市をつくるということである。

木津川市は京都府南部に位置している。木津川市の人口は約8万人で、その内外国人人口は約670人である。木津川市に住んでいる外国人の数はそれほど多くないが、奈良県や大阪府、京都市へのアクセスが良いことや、同志社国際学院国際部があることなどが背景にあり、木津川市を生活の拠点としている外国人の数は少なくない。

こうした外国人に対して、生活上の困難を軽減するための取り組みは多くなされている。例えば、木津川市のホームページには、英語で書かれたページが用意されている他、その他の言語についても翻訳機能を用いて情報を得ることができるようになっている。しかし、不安感や孤独感といった精神的な困難は、言語だけでは解決できない。解決のためには、人とのつながりを強化し、コミュニティを高めることが大切である。ただAIや翻訳機能を用いて情報を提供するだけでなく、普段からあいさつをするなど、多様な視点から解決策を見いだすべきである。

外国人にとってやさしいまちづくりを考えることを通して、生徒は一人の市民としての自覚をもってコミュニティの強化に貢献するようになり、共生社会の実現につながるため、本単元を取り上げることには意義があると考えられる。

#### (2) 生徒観

本学級の生徒は、普段から様々なことに興味をもち、何事にも真面目に取り組んでいる。しかし勉強内容が難しくなってきたことや受験への不安感などから、勉強が嫌いな生徒や勉強の意義を見いだせない生徒が増えてきた。本単元は、社会科や英語科、国語科といった教科との関連が高いため、教科で学んだことを生かして取り組んだり、本単元での学びを教科の学習につなげたりすることができる。そのため、教科の学習意欲を向上させたり、教科の学習で得た知識の活用能力を高め

たりすることができる。また、生徒に身近な木津川市を学びのフィールドとして「木津川やさCプロジェクト」を実施するため、まちの課題を自分ごととして捉えやすく、実際に地域のコミュニティ力の強化にもつながると期待できる。以上より、好奇心旺盛な本学級の生徒にとって、本単元の学習は効果的であると考えられる。

### (3) 指導観

本単元の指導に当たっては、生徒の主体性を重視し、生徒がしたい活動を自分で選択して実施できるようにする。そのために、ALTの先生やフィールドワークといった体験的な活動を実施して生徒の学習意欲を高めたり、教科と関連させて学んだことを生かせたりするようにする。例えば後者について、社会科と関連させて地域学習を行いまちの課題に気づかせたり、英語科や国語科、美術科と関連させて「木津川やさCプロジェクト」を実施したりする。

単元の導入では、まちに多様な人々が暮らしていることに気づかせる。「外国人は英語が話せる」といった「外国人」に対する固定観念をあらかじめ出させることで、自分の想像以上に多様な人々がいることをより深く実感させたい。また、知り合いの外国人の実体験を聞かせることで、外国人にやさしいまちをつくることの意義を感じさせる。

次に、まちを批判的・多面的・多角的・総合的な視点から見つめ直し、課題を見つけさせる。課題を発見する際は、インターネットや本で調べるだけでなく、まちで暮らしている外国人の意見を聞くことや、まちを歩いて異なる視点から見つめ直すといった実体験が大切であることに気づかせる。特に、実際に困難を抱えていたALTの先生と出会わせることで、より課題解決や共生社会実現の意義を感じさせるとともに、意欲をもって今後の活動に取り組めるようにする。

課題が発見できたら、自分が深掘りしたい課題を選んでグループをつくり、課題と原因、解決策についてのプレゼンテーションを行う。

そして「木津川やさCプロジェクト」を実施する。「やさC」とは、「優しい」・「易しい」と”Community”を掛け合わせた造語であり、このプロジェクトでは、人々が優しく住みやすいコミュニティを実現することを目指す。プレゼンで述べた意見を基に、生徒が考えたいいくつかの解決策を実際に行う。例えば、やさしい日本語で書かれた生活マニュアル冊子をつくる、注意すべきことをピクトグラムで表現してスーパーや駅に掲示する、生活上の課題についてのアンケートのGoogleフォームを木津川市の広報の冊子に載せてもらうなどの策は実施可能であると考えられる。解決策を考える際は、上記のプレゼンのフィードバックや他のまちでの取り組みを参考にすると意見が出やすいと思われる。

最後に単元全体を振り返り、今後の活動につなげる。地域のコミュニティ力を高めることは、外国人だけでなく、生徒自身も含めた市民全員にとってもいいことであることに気づけるようにし、地蔵可能な共生社会の実現に向けて主体的に取り組もうとする態度を育成する。

#### (4) ESD との関連

##### ・ 本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性・・・まちには多様な言語・文化をもつ人が暮らしており、多様な人がいる方がまちが豊かになる。

公平性・・・国籍や年齢などに関わらず、全ての市民にとってやさしいまちをつくるべきである。

連携性・・・国籍や年齢などに関わらず、課題解決に向けて市民全員でまちづくりに参画することが大切である。

責任性・・・市民としての自覚をもって行動することが、共生社会の実現につながる。

##### ・ 本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

自分たちが暮らすまちを見つめ直し、課題を発見する。

他面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）

市民のニーズやまちの課題について、様々な角度から捉えて解決策を考える。

コミュニケーションを行う力

他者の話をよく聞いて考えを深めたり、考えた解決策を他者に伝えたりする。

他者と協力する態度

自分たちが暮らすまちをよりよくするために、他者と協力することの大切さに気づく。

進んで参加する態度

共生社会の実現に向けて、まちづくりに主体的に参加しようとする。

##### ・ 本学習で受容を促す ESD の価値観

世代間の公正

行われてきた取り組みやまちの良さを生かしながら一人一人がまちづくりに参画することが、現在の市民だけでなく未来の市民にとってもよいことであり、まちの持続につながる。

世代内の公正

自分たちだけでなく、まちで暮らす全ての市民にとってやさしいまちをつくっていくことが大切である。

人権・文化を尊重する

人権・文化は尊いものであり、全ての市民を考慮に入れてまちづくりを行うことがよりよい共生社会の実現につながる。

幸福感に敏感になる

多様な他者と共に暮らすことは幸せである。

##### ・ 達成が期待される SDGs

目標 3 「すべての人に健康と福祉を」

目標 10 「人や国の不平等をなくそう」

目標 11 「住み続けられるまちづくりを」

目標 16 「平和と公正をすべての人に」

#### 4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
<p>① まちで暮らす多様な外国人や、まちが抱える課題・原因を理解している。</p> <p>② 調べたことや考えたことを分かりやすく資料にまとめることができる。</p>	<p>① 調べたことから課題を発見し、外国人が快適に暮らすことができるような方策を考えることができる。</p> <p>② 調べたことや考えたことを、適切な表現方法で他者に伝えることができる。</p>	<p>① まちづくりの目的意識をもち、意欲的に取り組んでいる。</p> <p>② 共生社会の実現に向けて「木津川やさCプロジェクト」に主体的に取り組んでいる。</p>

#### 5 単元の指導計画（全 15 時間）

学習活動	学習への支援（・）	評価
<p>【みつめる】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">まちには、どのような人が暮らしているだろうか。</p> <p>1. 外国人にやさしいまちをつくることの意義を感じるとともに、今後の活動の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちには多様な人々が暮らしていることに気づかせる。</li> <li>・ 「外国人」に関する固定観念を出させる。 例：「外国人は英語が話せる。」</li> <li>・ 木津川市に住む外国人について、予想を立てさせる。 例：「数は300人くらい。」「アメリカ人が多い。」</li> <li>・ 知り合いの外国人が実際に経験した「困難」の話をする中で、外国人にやさしいまちをつくることの意義を感じさせる。</li> </ul>	<p>ウ①（主体的）</p>
<p>【しらべる】</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">外国人にやさしいまちをつくるために、どうすれば良いだろうか。</p> <p>2. まちに暮らす外国人や彼らが抱える困難について調べ、まちの課題を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちにはどのような外国人が暮らしているのかを、実際に見た経験やインターネットの情報から知る。</li> <li>・ 外国人がどのような困難を抱えているかをインターネットや本などで調べたり想像したりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 京都府のホームページなどを参考に調べさせる。</li> <li>・ 想像しにくい生徒に対しては、自分が海外で生活するとしたらどんなことに困るのかを考えさせる。</li> </ul>	<p>ア①（知・技）</p> <p>イ②（思判表）</p> <p>ウ①（主体的）</p>

<p>3. ALT の先生に、生活の中での困難を聞く。</p> <p>4. フィールドワークを行い、まちの課題を見つける。</p> <p>5. 調べたことをもとに、まちの課題について班で話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に困っている人に出会わせることで、生徒の学習意欲を高められるようにする。</li> <li>・ALT の先生との協力が叶わない場合は、知り合いの外国人に講演してもらう。</li> <li>・生徒が、写真を撮ったり、PMI 法やクラゲチャートといった思考ツールを活用したワークシートに書き込んだりできるようにする。</li> <li>・ハラル (ハラール) 対応のお店に言及するなど、宗教や文化といった多様な視点からもまちを見つめ直せるようにする。</li> </ul>																						
<p>【ふかめる】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>外国人にやさしいまちをつくるために、どうすれば良いだろうか。</p> </div> <p>6. これまでの学習のまとめと今後の学習の流れを確認するとともに、グループでのプレゼンテーションのための準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの課題と原因について、調べたことや気づいたこと、考えたことなどを共有する。</li> <li>・今後「木津川やさCプロジェクト」を実行することを知る。</li> <li>・「木津川やさCプロジェクト」の実行のため、まちの課題、原因、自分にできることの3要素についてのプレゼンテーションを行うことを知る。</li> </ul> <p>7、8.</p> <p>「木津川やさCプロジェクト」の計画をたて、プレゼンテーションのための準備をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちの課題と原因を確認することで、生徒に危機感やまちづくりの目的意識を抱かせる。</li> <li>・できるだけ生徒がしたい活動ができるよう、1グループの人数を3人～6人程度にする。</li> <li>・パワーポイントを活用させる。</li> <li>・まちの課題、原因、自分にできること (=木津川やさCプロジェクトの案) の3要素を必ず発表するよう伝える。</li> <li>・自分にできることについては、後の「木津川やさCプロジェクト」につなげるために、ある程度実行可能なものを考えるよう伝える。</li> <li>・これまで調べたことや、PMI 法やクラゲチャートといった思考ツールを活用できるようにする。</li> </ul> <p>例：</p> <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">効果大</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">実</td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="text-align: center;">実</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">現</td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="text-align: center;">現</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">不</td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="text-align: center;">可</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">可</td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="text-align: center;">能</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">能</td> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; height: 20px;"></td> <td style="text-align: center;">能</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">効果小</td> <td></td> </tr> </table>		効果大		実		実	現		現	不		可	可		能	能		能		効果小		<p>ア①② (知・技)</p> <p>イ①② (思判表)</p> <p>ウ① (主体的)</p>
	効果大																						
実		実																					
現		現																					
不		可																					
可		能																					
能		能																					
	効果小																						

<p>9. プレゼンテーションを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が、プレゼンの作成段階で ALT の先生に助言をもらえたり他のグループと交流したりできるようにする。</li> <li>・ALT の先生にプレゼンを聞いてもらい、フィードバックが得られるようにする。</li> <li>・他のグループの発表を聞いて生徒同士が交流できるようにする。</li> </ul>	
<p>【ひろげる】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>外国人にやさしいまちにするために、自分ができることは何だろう。</p> </div> <p>10. プレゼンテーションのフィードバックや他のまちの取り組みを参考に「木津川やさCプロジェクト」の案を考える。</p> <p>11、12、13. 「木津川やさCプロジェクト」の案を考え、準備する。</p> <p>14. 「木津川やさCプロジェクト」を実施する。</p> <p>15. 単元の振り返りを行い、今後の学習につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションのフィードバックを与える。</li> <li>・他のまちの取り組みを紹介する。</li> <li>・実行可能な案を考えさせる。 例：やさしい日本語で書かれた生活マニュアル冊子をつくる、注意すべきことをピクトグラムで表現してスーパーや駅に掲示する、生活上の課題についてのアンケートの Google フォームを木津川市の広報の冊子に載せてもらう など</li> <li>・会釈をしたりあいさつをしたりするだけでも、コミュニティの強化につながることを伝える。</li> <li>・まちに多様な人がいることのよさを実感させる。</li> <li>・コミュニティの強化は、外国人だけでなくそのほかの市民や自分たちにとってもよいことであることに気づかせる。</li> <li>・普段から生活を批判的・他面的・多角的に捉えながら生活するように伝える。</li> </ul>	<p>ア①② (知・技)</p> <p>イ①② (思判表)</p> <p>ウ①② (主体的)</p>

### ○参考文献

「木津川市の人口」(令和4年12月31日) 木津川市ホームページ

<https://www.city.kizugawa.lg.jp/index.cfm/10,535,51,202,html>

京都府外国人住民数(総数・国籍別)の推移(令和3年) 京都府ホームページ

<https://www.pref.kyoto.jp/kokusai/documents/zyuminnsuii.pdf>

○単元構想案（全15時間）

まちにはどんな人が暮らしているだろう

子ども 高齢者 障害のある人 妊婦さん 外国人

まちでは、外国人に対してどのような配慮がされているのだろう

看板に英語で読み方が書かれている

電車で、英語や中国語、韓国語のアナウンスが流れる

英語だけでなく、他の言語での説明もあったほうがいいかな

日本にはどんな国の人に住んでいるのかな

**外国人にやさしいまちをつくるために、どうすれば良いだろうか**

日本に住む外国人の国籍を調べてみよう (京都府HPなど)

どんな課題があるか調べてみよう (京都府HPなど)

中国・韓国・ベトナム出身の外国人が多い

京都府だと61139人、木津川市だけでも670人の外国人が住んでいる

HPには医療・仕事・食・災害などの項目があった

ALTの先生に聞いてみよう

本当に困っている人がいるんだなあ

英語を母語とする人は少ない

私がおもこのまちに住む外国人だったら...

まちに行って探してみよう

今まで意識したことがなかったけど、意外とたくさんの課題があるなあ

なぜ解決できていないのだろう

人々の意識が低いから

対応している言語が少ないから

信頼できる相談相手がないから

そもそも手続きや制度がややこしすぎるから

**外国人にやさしいまちにするために、自分ができるとは何だろう**

外国人が日本語を習得しやすいように、やさしい日本語に書き換えた冊子をつくる

ピクトグラムをつかって、お店や駅に掲示する

あいさつをして、顔見知りになっておく

「木津川やさCプロジェクト」を実施しよう

横浜市 多文化共生のまち

静岡 大阪

他のまちでの取り組みについて調べてみよう

**外国人だけでなく、皆が住み続けられるまちづくりについて考えてみよう**

あいさつをすることなどは、外国人以外の人にとっても良いことだなあ